

皆様、こんにちは。岩城地区担当ALTのエーリン・グ・アロン・ブライアンです。今回は私の出身地についてお話しします。私はイングランドの北部の都市マンチェスターのちょうど南にあるマクルズフィールドという町から来ました。北部の出身にもかかわらず、私の両親がイングランド南部の出身ですので、私の英語のアクセントは南部なまりです。私が十歳の時にここに来ました。

マクルズフィールドは、ピーク・ディストリクトと呼ばれるイングランドの丘陵地であり、丘や山々に囲まれた大変美しいところです。母は毎日犬を連れ美しい丘の上を長時間散歩しています。丘の上からの景色は素晴らしいです。

町はとても古い歴史をもち千年前の記録があります。従って、町の中心街では古い建物がたくさん見られます。教会は大使ミカエルの名前を取り、セント・ミカエル教会といい、とても古くしかも大変美しい建物です。

マクルズフィールドは、18世紀には絹製品の生産量では世界一であり、特に絹ボタンの生産で有名でした。そのため町を貫く大通りは「絹の道」と呼ばれ、町のフットボールチームのニックネームも「シルクメン（絹の男たち）」です。



▲位置図



▲マクルズフィールドに広がる美しい田園風景

古い歴史を持つセント・ミカエル教会



12歳から18歳まで通った学校は、大変歴史が古く1502年の創立ですので500年以上も経っています。イングランド王エドワード6世にちなみ、「マクルズフィールドの王の学校」と呼ばれています。2002年には英国女王エリザベス2世が来校されました。女王の即位50周年記念の年とこの学校の創立500年祝典の年が同じ年だったからです。今時めずらしく男子生徒のみの学校ですが、伝統に従い、制度も古いままで。学校には「ハウス」と呼ばれる学級や学年とは違うチームのような組織があり、生徒はいずれかのハウスに所属します。ハウス対抗の学校行事の際には、生徒たちはそれぞれハウスカラーのネクタイをします。私は黄色のネクタイのハウスに所属していました。

マクルズフィールドはマンチェスターにとっても近く、そこには電車もあるので、便利の良いところです。そうでありながらここは非常に美しい田園地帯で、私はマクルズフィールドをとっても気に入っています。

各地区の英会話教室

- 《弓削》毎週水曜日19:30～
弓削地域交流センター第1会議室
- 《生名》毎週月曜日 8:45～生名公民館
毎週火曜日19:30～生名公民館
- 《岩城》毎週木曜日20:00～岩城総合支所庁舎
- 《魚島》毎週水曜日19:30～魚島開発センター

こんにちは 町長です



上島町の子ども達は、我がふるさとのかけがえのない宝です。もちろん弓削商船高等専門学校の生徒（本来は学生と呼ぶべきですが、以前の親しみを込めて）さん全員も、私達の誇りです。昭和五十年代の私が大学時代、島に帰って来ると、運動部でスポーツ刈りをしていたせいか、町ですれ違う全員の生徒さんが、私を弓削商船高等専門学校の先輩と勘違いして、敬礼で挨拶をしてくれました。こちらは恥ずかしかったけれども、清々しく誇りに感じていました。

現在は時代も学科も以前とは異なり、若者の気質も変わったせい、弓削高等学校や小中学校の生徒さんに比べると、挨拶をする弓削商船高等専門学校の生徒さんが少なくなりました。しかし、今でも役場への出勤時、早朝の登校中に挨拶をしてくれる生徒さんがいるんです。その声と爽やかな笑顔に触れ、「今日も頑張るぞ」という気持ち、胸の奥から湧き出して来ます。

皆さんの何気ない挨拶は、現代社会に多少疲れた私達に、勇気と元気を与えてくれています。皆さんが道を歩いてくれているだけで、町が明るくなります。

外国に学ぶことも多くありますが、必要以上に真似をすることよりも、日本人が受け継いできた当たり前の習慣を身につけ、守ることの方が、世界に評価される「上島町の誇り」ではないかと、最近感じています。

上島町長 上村俊之